

—シリーズ—
8K放送
カウントダウン⑩



TA-1のミキシングルーム内



東京・渋谷のNHK放送センター正面玄関前の駐車場で、音声中継車「SA-1」（右）と音声制作車「TA-1」（左）

トレーラー形式ではNHK初！

22.2マルチチャンネル音響対応 音声制作車「TA-1」が完成

NHKは8Kライブ中継の22.2マルチチャンネル音響制作を可能とする、トレーラー形式音声制作車「TA-1」を開発。NHKは8Kスーパーハイビジョンのライブ中継のために映像と音声、それぞれの中継車を完成させてきたが、今回のTA-1はNHK初のトレーラー形式である。高臨場感を実現する音声制作に、トレーラー形式がもたらす効力とは何か。初号の22.2マルチチャンネル音響対応音声中継車「SA-1」との違いを放送技術局報道技術センター中継部副部長の田丸順氏に聞きながら探った。

●聞き手：吉井 勇・本誌編集長
●構成：古山智恵・本誌編集部
●写真：川津貴信

トレーラーで22.2chの より広い空間を確保

—— 中継先でも22.2ch音響にふさわしい制作環境を確保するために開発された音声中継車ですが、昨年開発した音声中継車「SA-1」との違いを教えてください。

田丸 SA-1は大型トラックシャーシをベースとしていますが、TA-1はトレーラー形式で、トラクタ含めて全長12m×幅2.5m×高3.7mとなっています。また、両側拡幅が可能で、拡幅時は幅3.8mとなります。トレーラー内部は、メインのミキシングルー